

小児科だより vol.17

『一年の計は元旦にあり パート2』

2018.1.4 発行

あけましておめでとうございます。本年も市立御前崎総合病院小児科並びに小児科だよりをよろしく願いいたします。

さっそくですが、昨年1月の小児科だよりにも、同様のタイトルで、出生・誕生の瞬間と、それに伴う試練と蘇生法についてのお話を書いております。気になる方は、病院ホームページを参考にいただけますと幸いです。



さて、今回の小児科だよりは、パート2として、分娩に携わる方に対して実際に開催している、新生児蘇生法講習会について、お話をしたいと思います。

まったく順調な妊娠経過を過ごした場合でも、誕生の際の劇的な変化（へその緒から離脱して、肺呼吸を始める）への適応障害が突然出現することは稀ではありません。このような理由から、小児科医師だけではなく、分娩にかかわるすべての産科医師・助産師・看護師が標準的な新生児蘇生法の理論と技術を習熟しておくことが重要と考えられています。そのため、日本周産期・新生児学会を中心に、講習会を通じて新生児蘇生法を習得するためのプロジェクトを進めています。

講習会開催の最終目標は、新生児仮死（仮死状態で生まれてきた赤ちゃん）の予後（発達や成長）を改善することです。そのために最も重要と考えられていることは、『遅延なき有効な人工呼吸』です。そのため、講習会では実際に人工呼吸のやり方を、赤ちゃんの人形（実際に有効な人工呼吸を行うと胸が上がります）や何種類かのマスク換気道具を使って、皆さんに体験していただきます。また実際の場面を想定し、受講者に数名ごとのチームになっていただき、心拍数や酸素飽和度など時系列で表示しながら、実践的なシミュレーションを行います。

講習会では、新生児蘇生の技術やシミュレーションと同様に、繰り返し講習を受けることの重要性についても説明させていただきます。人間は忘れる生き物で、それはどんな人でも一緒です。分娩や出産は幸せの瞬間ですが、一転して試練となることがあります。そういう時ほど慌ててしまって、普段出来ることがおぼつかなくなるものです。私と一緒に講習会を行うチームも、定期的に講習会を行うことで、知識を維持し、どんな場面でも落ち着いて蘇生が出来るように、受講者とともに毎回学ばせていただいています。興味をお持ちの方は、小児科外来または深澤までご相談下さい。